

楽しもうインフィニティ ミラージュ

魚津埋没林博物館 佐藤真樹、黒部市美術館 尺戸智佳子、富山県歌人連盟 山口桂子・高野佳子

● どんな工作・実験なの？

みなさん、インフィニティ ミラージュをもう見ましたか？

インフィニティ ミラージュは、アーティストの山下真衣+小林直人さんの作品です。黒部市生地の堤防に大きな「m」の形の看板（蜃気楼（しんきろう）にする物）をはりつけました。作家さんは、海の上に蜃気楼があらわれたとき、「m」がひっくり返って見えることで「∞（無限）」をえがこうとしました。そして遠くはなれた魚津の海辺から望遠カメラで撮影し YouTube でライブ配信（右 QR コードより）しています。



この作品の小学生向けワークシートを黒部市美術館・魚津埋没林博物館《infinity~mirage》実行委員会が作りました。ワークシートを図工や短歌で発展させる方法の紹介に加え、プラ板で「m」ストラップを作って、蜃気楼再現装置や、熱した鉄板などを用いて蜃気楼で「∞」が作れるか実験する方法を紹介します。

● 用意するもの

蜃気楼にする物・・・「m」ストラップのほか、さまざまな大きさの絵をえがいてみよう
鉄板、カセットコンロ（大人と一緒にしよう）、物差しやメジャー

● 工作・実験のしかたとコツ

① 蜃気楼にする物を描く

プラ板「m」ストラップ（幅 5cm、高さ 1.5cm）を用いよう。斜めの線がある絵を用いると蜃気楼による変化を見つけやすいよ。



② テーブルの上で鉄板を温める

鉄板は上下をさかさまにしてカセットコンロの上に置いて温める。

熱い平な面を作ることが大事です。

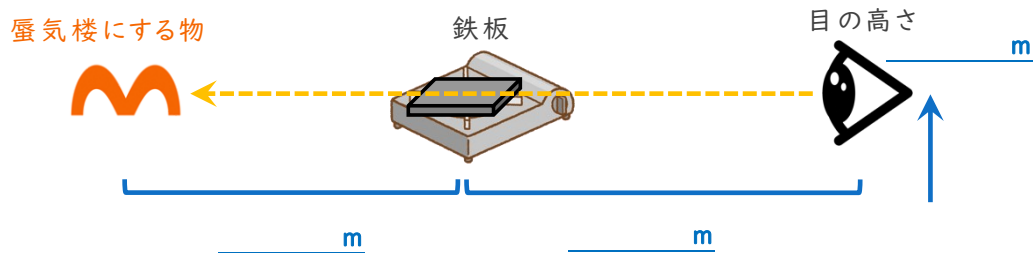
③ 鉄板の平な面と同じ高さに蜃気楼にする物（「m」ストラップ）を置く。

④ 鉄板と目の高さを合わせて、蜃気楼にする物を見る。

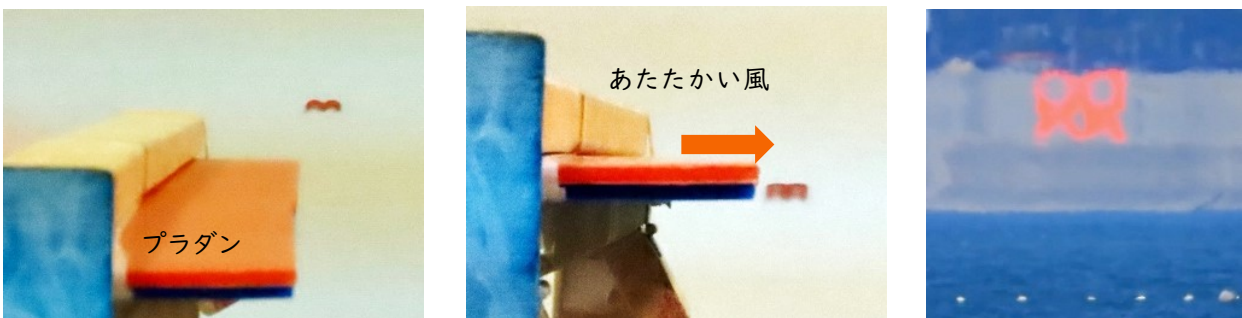
物と鉄板の距離や見る高さを変えながら見て、見える像の形を観察してみよう。



上の写真では、蜃気楼にする物（「m」ストラップ）と鉄板の間は 3m、鉄板と目の間は 2.5m くらいで、視線の高さを変えながら観察しました。右上に示したインフィニティ ミラーズのライブ写真の蜃気楼と似た変化が見えますね。



また、布団乾燥機の温風とプラダンを用いた蜃気楼再現装置を使うと m の上に「∞」が見えるよ（下写真、右はインフィニティ ミラーズのライブ写真）。



鉄板とカセットコンロを用いなくても、地面がキラキラみえる逃水（にげみず）が見えるような暑い日は、路面でも同様にできるかもしれません。蜃気楼にする物の大きさや距離を考えて実験してみよう。

● 気をつけよう

カセットコンロを使う時は大人の方と行いましょう。

逃水は、車が来ない公園内のアスファルトなどで目の高さを下げて探そう。

● もっとくわしく知るために

魚津埋没林博物館や日本蜃気楼協議会のホームページにも蜃気楼の情報があるよ。

短歌については、富山県歌人連盟 <http://www.toyamakajin.com/> を見てね。